

人には生まれながらにもつ特性というのがあるようだ。それを統計的に分析し、体系化したものに素質論というものがある。素質論とは、「人の生得的に具有している言動の素となる心的傾向性を探究し、理論体系の構築と共に統計的手法によって統計財を生産していく理論の総称」と定義されている。つまり、人はそれぞれ、生まれながらにして、自身の心の底には「こんな生き方がしたい」というものをもっているのだ。実に興味深い。

この素質論を学んでいるときにこんな話がでてきた。人は目に見えない波動を発しており、前向きな波動は前向きな空気を引き寄せるといふのだ。これは量子力学である。引き寄せの法則という言葉もあるように、人の気持ちは同じ気持ちをもつ人を引き寄せる。好きなアイドルの話をして盛り上がりたり、勉強好きな人が集まったりと、気付けば自分と似た気持ちや思いをもった人が自分に周囲には集まるものだ。人の悪口や陰口を言い合う集団を見かけることがあるが、これも負の波動を出し合い、引き寄せている。「一人でいたらそんなことはしないのに…」と思った経験はないだろうか。

とは言っても、人によって価値観や考え方、行動スタイルが違っている以上、そこには目に見えない様々は波動が存在しているため、これを強制することなく、まともあげるのは至難の業である。だから人の一番の悩みは人間関係であると言われる。ただ、大切なのはこのような「目に見えない波動」が存在することをまず知っていることではないだろうか。目に見える行動や言動は氷山の一角でしかない。諸説あるが、顕在意識はたった5%ともいわれる。そのような現象の背景である残り95%の潜在意識に目を向けることがよりよい共生社会づくりへの第一歩である。

知性と靈性に磨きをかける量子力学

皆さんは「人生の指針」と呼べるようなものをお持ちだろうか。

いつ、いかなる時も、意識し、行動する際の基本姿勢となっているもので、私の場合、それは「目に見える現象は目に見えない世界とつながっている」である。

どういうことかと言うと、目の前に起きていることの多くは、見えない世界が現象として形になったものであるとか、自分の身の回りに起こる困ったことや嬉しいことは、自分の意識や思考、心の反映であると、普段からそう思って生活しているということだ。

経済一辺倒・物質至上主義の70年代、80年代に教育を受け、科学万能の社会にもまれてきた人には、いささか違和感のある考え方かもしれない。「知性」の高い人は尊敬されるが、「靈性」の高い人は眉唾物のように思われてきた時代でもあった。しかし、21世紀に入って、「スピリチュアル」という言葉が生まれ、広まった。そして東日本大震災のあたりからスピリチュアルな話をして、「それ宗教ですか?」と言われなくなり、「神様」や「あの世」の話を普通に話れるようになった感がある。

元々日本には「お天道様が見ている」とか「草葉の陰から祈る」という言葉があり、生活に溶け込んでいる年中行事は宗教的な意味合いも含まれている。そういう意味では、日本人は結構豊かな靈性を備えた民族なのだ。「見えない世界」のことは、政治・経済の分野で取り沙汰されることはないが、科学の分野では随分前からその存在に気づいた科学者によって研究・開発されてきた。

たとえば、磁石にはN極とS極があり、異なる極は引き合い、同じ極は反発する。電気にもプラス極とマイナス極があり、異極同士は引き合い、同極同士は反発する。そこには目には見えない力が作用していて、その場所をそれぞれ「磁界」「電界」と呼んでいる。

その二つの世界を互いに影響させると電磁界が発生し、その中をもものすごい速さで伝わる「波」の存在が確認されている。その「波」を利用したのが、たとえば電波だ。放送局で作られた映像は、一旦電気信号に変えられ放送タワーに送られる。放送タワーはそれを電波に乗せ、中継タワーや各家庭に向けて送信する。

だからその電波をキャッチする受信機さえあれば、目に見えない電気信号が視聴覚で認識できる映像として再現できるのだ。100年以上も前に開発されたテレビの技術だが、その現象に「不思議だ」と思う人はいないだろう。そして今日、科学がやっと人間の靈性に追いついた。その「放送局」「放送タワー」「電波」「映像」のようなものが、人間の世界にも同様にあるというのだ。

量子力学の世界である。分子や原子を扱う物理学より、もっと小さな「素粒子」を扱う量子力学では、「フォトン」という光の振動エネルギーの素粒子が確認されている。

イライラしていたり、不平不満の心があつたりすると、その感情のフォトンが波動という波に乗って発振され、周りの人やその場の空気に影響し、どんよりとした雰囲気をつくる。

そこに喜びと幸せに溢れた人が満面の笑顔で入ってくると、陽気なフォトンが発振され、場の空気を変えてしまう。詳細は村松大輔著『お金、成功、ご縁! すべてが用意されているゼロポイントフィールドにつながる生き方 量子力学で夢をかなえる!』(徳間書店)という長いタイトルの本に譲るとして、驚くべきことは「ゼロポイントフィールド」の存在である。

宗教では「神」と呼び、分子生物学者の村上和雄さんは「サムシング・グレート」と呼んだ。宇宙に存在するエネルギーの根源、すべての情報の根源、愛と創造の根源を量子力学では「ゼロポイントフィールド」と呼ぶ。

クオリティの高い、より良い人生とは、この「ゼロポイントフィールドとつながる生き方」というのである。

要は、現実世界をより良くしたいと思ったら、見えない世界の力をうまく活用していくことである。

今まで精神世界のことと思ってきたが、それが科学で説明できるようになった。ただし、知性がついてくれば、の話だが、
「日本講演新聞2976号(2023/05/08)社説 魂の編集長 水谷謹人」より

この記事を目にした数日後に、素質論を学び始め、そこで量子力学の話が登場した。これも引き寄せの力であろう。この力も使いようである。この性質をうまく活用できれば、自分が潜在的に抱く生き方を実現できるかもしれない。